

○史上の名刀

○細川の大三原

細川幽齋が祕藏の大三原の脇差と云物がある、誰の作とも記した物を見ないが概た三原の正家で有る。ふ二尺程もあつてたつぷりして居るので大三原と號したものかと思ふ、此脇差幽齋より細川忠興へ傳つた、忠興の嫡子忠利が頻りに欲がつて所望したが忠興は興えない、其事がどうした譯か二代將軍秀忠が聞て居た、ある時秀忠が淺草川にて水泳だ時忠興もお供をして出て居ると、越中守も泳ぎ候へと言たので忠興差て居た大三原の脇差を抜き衣服をぬぎ捨て川へ入た其跡で將軍川より揚り忠興が抜て置た脇差を執て見ると見覺のある大三原である、其時嫡子忠利が傍に蹲踞て居たのを近く招き、この大三原を其方内々望みの由幸ひ吾等取次に遣し候越中も異議は申まじと高々と言れた忠興も聞て居たが將軍の事だから致し方がない、其後忠利より弟の忠孝へ譲り忠興の曾孫綱利が生れた時忠孝より本家へ祝儀として此脇差を贈る、其より光尚へ傳り、光尚逝去の時は遺物として行孝へ送り代々あなたこなたと本家分家の間を相傳して居たが今は何れに在るか